

第1回「江井ヶ島にお住いの高齢者の話を聞く会」

崎野としゑさんの「江井ヶ島」談の記録（要約）

日時：2016年（H28）6月15日 13：00～15：00

江井島小学校の移転の折に小学校のお別れの会があって、江井島婦人会の各村の代表者が、小学校や地域の現状を残そうと言う事になり、折しもコミセンが出来た頃に地域活動として「故郷の文化を学ぶ会」を立ち上げた。

内容は「生活と文化」に絞って自分たちが生きた歴史の記憶と経験を本にして「しまの耳ぶくろ」の表題で残すことにした。

録音する人、表紙を作る人、編集する人、文章化する人など各人の持っている力、得意の分野で活躍した結果であると考えている。

日工は「はの池」があった所に移転して来た。明石から電車に乗って江井ヶ島の手前になると、東江から西江の「かわらしや」（瓦製造業者）の煙突が林立し、今は日工になっている池や墓、池の真ん中の島や結構な構えの観音堂が見えてのどかできれいな光景であった。

江井ヶ島で瓦製造が盛んになったのは土が良く粘土があったから焼き物が発達し、歴史的には大陸から仏教と共に伝わったもので、長坂寺に焼き物の神さんとして「たいしさん」を祀ったお寺があるが「かわらしさん」と相通じるものがある。

瓦を焼きながら帆船の和船で大阪の中之島公会堂の煉瓦を運んだ。西島の川崎久左衛門さんがおおきな和船を持っておられて、瓦などを運んだ。

しかし、その土もやがて枯渇し、やがて世の中では、公害が課題になり、多くの煙突があった瓦製造業者も煙害で廃業を余儀なくされた。

「森は千軒」と言って賑わっていた。聖天さんを中心として、栄えており、小さい時にサーカスや芝居が来ており、如法寺の前にサーカスが来て見に行った。お寺の大垣さんのおばあちゃんが八卦を見られるので、何度も見てもらった。

谷八木の史家が「江井島は野仏、五輪さん（五輪塔）が沢山ありますね、あれは秀吉が毛利水軍を支援した庄屋のト部一族を罰し、更に柳井の人に秀吉が南側の江井ヶ島の住民を見張り、報告する命令をして、多くの住人を殺傷し柳井の香盤池で刀を洗い、住民が五輪塔を作って祀った結果です」と聞いた。柳井の人は仕方なくさせられたことで江井ヶ島の人と共にコミュニティが背負った受難であったと考えている。

「魚住の泊」は昔、住吉神社の今の神主さんのお父さんが江井ヶ島とよく張り合って「魚住の泊」と中尾であると主張していたが、神社が地域を治めていたことが背景にあったのだろうと思う。

東島の定禅寺は西寺、長楽寺は中寺と言われているが、東寺は東江にあったようだ。日工の広い道の西側にあったみたいで、ちょうど今の大歳神社の横側を祖父が「あそこは元が寺の土地やったから買ってはならない」と言っていた。そこが東寺であったとは聞いていないが、多分その事と思う。コミュニティ会館の真西になり、山田の酒屋さんや細田さんの家があった。

江井ヶ島に「学生会」というのがあってト部さん田中さんと言った酒造りの子供が早稲田や他の大学に行っている学生が夏休みで戻ってくると女学校や中学を目指す子供に小学校で教えてくれる講座があった。江井ヶ島酒造の補助があったようだ。

略歴（自己紹介）

地場産業の瓦製造業の娘として江井ヶ島に生まれる。

江井島尋常小学校、県立神戸第 4 高等女学校卒業後、家業の瓦業に従事、その後、ダスキンの製造業に転じた。明石市連合婦人会長、調停委員を歴任。

あとがき

崎野としゑさんを 2016 年 6 月 15 日に江井島小学校コミセンにお招きして 2 時間ほど喋って頂いたものを要約して文字に落としたものである。（文責：佐藤 進）